

(様式第1号)

平成30年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

会派名 新風

代表者職氏名 会長 菅野定



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、平成29年度政務活動の状況について報告いたします。

記

1 管外行政視察事業

詳細は別紙1のとおり



(別紙1)

(1) 実施日 平成30年2月1日(木)～3日(土)

(2) 視察場所 北海道石狩市：石狩市役所

(3) 参加者 菅野定(会長)、及川修一(副会長)、三井俊介(事務局長) 3名

(4) 内容

◎ 2月1日(木)

(ア) 行程

陸前高田市～花巻空港発～新千歳空港～石狩市役所～ガトーキングダム(宿泊)

(イ) 視察

① 石狩市役所 13:30～15:00

説明員：佐々木大樹氏(環境市民部環境政策課 課長)

武田知佳氏(環境市民部環境政策課 主査)

地域新エネルギーの事例の紹介を受ける。

説明内容：石狩市新エネルギービジョンや、石狩湾新港のエネルギー集積地帯について、地域林材カスケード利用推進や、環境白書などについての説明を受けた。10年前から取り組みを続けていることで一定数の企業を誘致することにも成功しており、計画よりも大幅に大きな電力を生み出せている。また成功モデルとして JICA の研修プログラムなどになっている。

所感：新エネルギー集積地を構築したことで多くの市外の企業を誘致できているのはとても素晴らしいことだと感じた。一方で住民にとっては電気料金が安くなるなどのメリットは、いまはまだないということであった。その部分をどう設計できるかによってこの取り組みが全国的な成功モデルになるかどうかの境目なのだろうと感じた。当市でもし取り入れる場合には、住民へのメリットを第一に示せるようにしたい。

◎ 2月2日（金）

（ア）行程

ガトーキングダム～石狩市役所～ガトーキングダム（宿泊）

（イ）視察

① 石狩市役所 10:00～11:30

説明員：中西章司氏（企画経済部商工労働観光課 課長）

道の駅石狩「あいろーど厚田」の事例の紹介を受ける。

説明内容：平成30年4月27日にオープン予定の重点道の駅の説明を受けた。地域資源の磨き上げを行い、「ここでしか買えない」もの創り出していた。また周辺環境を考慮し、既に石狩市への観光客の導線も考慮されていた。また観光客だけでなく、住民が普段使いできるような仕掛けが施されていた。計画としては、多機能拠点形成ビジョンを元に、地域生活拠点、集客拠点、自然体験拠点の3つを連携させる計画のもとでスタートしているということであった。

所感：民間出身者が社長を務める株式会社あい風に指定管理にしていることは注目すべきことであった。年間5500万円の指定管理費を行政から毎年拠出するようであるが、その投資を以下に住民にわかりやすく還元していくのか。ということが重要である。その中で、集客に関しては行政側で大きな支援をしていくことで、テナントに入る民間企業（一店舗で集客しきれない誘客が可能）に対して大きなメリットを打ち出していることで魅力的な店舗を集めていた。

① 石狩市役所 13:30～15:00

説明員：田村奈緒美氏（保健福祉部障がい福祉課 課長）

坂下和広氏（保健福祉部障がい福祉課 主査）

「手話条例と関連する取り組み」の事例の紹介を受ける。

説明内容：平成25年に制定された、全国の市町村では初の手話条例成立のその後の展開と取り組みについてお話を伺った。現在では市内全校で手話出前授業が行われていたり、手話通訳士の育成と嘱託職員としての採用など力を入れていた。市

長が強く推奨しているため、一般財源で充てられているということであった。

所感：全国初の取り組みであったため、その後、デフソフトボールの全国大会の開催の決定など波及効果も大きくあったという。「手話は言語である」とした、子供達に出張授業で実際のろう者の方と触れ合ってもらうことで、こどもたちの心の成長にも大きく寄与しているものであると感じた。「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」を推進する本市においても、中長期的なマインド情勢に力を入れていくしかない。